



次代を開く

建設コンサル

2022年は業績が非常に好調に推移した。国内は国土強靱化と防災・減災対策の予算が確保されており、海外もインフラ整備が堅調に進むなど良好な事業環境によって11

オリエンタルコンサルタンツ
ホールディングス

野崎 秀則 社長

最適ソリューション提供

年連続で増益を実現した。資材価格の高騰などを背景に、建築に関係した民間需要はなかなか厳しい状況にあった。その中でもグループ各社が特徴を生かした結果がこの業績だと受け止めている。

30年9月期を最終年度とする中期経営計画はDX推進をキーワードの一つにしている。DXを活用することでインフラのライフサイクル全体

にかかる業務で生産性向上が図れる。当社グループだけではできないことも多い。多様な企業とタッグを組み最適なソリューションを提供する中で、存在意義を強めていく。

カーボンニュートラル（C N）への対応は時代の要請だ。Nへの対応は時代の要請だ。各自自治体でC Nを実現するための計画を策定する動きがある。50年まで長期的に続く市場だ。そこを主戦場と捉えており、しっかりと対応していく。

人材確保では就労環境の改善に取り組み、成果が見込まれる施策はグループで水平展開している。事業会社のオリエンタルコンサルタンツでは地域限定社員や70歳定年制度などを試行導入した。コロナ禍で導入した在宅勤務は、現在は出勤とのハイブリッドで運用している。各事業会社の特性に合う施策を取り入れ、グループ全体を高めていく。